

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市内生江小学校の結果概要

令和８年度の平均正答率は、全国平均と比較して、国語が下回り、算数が上回る結果となった。平均無解答率は国語・算数ともに全国平均を下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

○全国平均と比較して「情報の扱い方に関する事項」が大きく上回る結果となっている。しかし、「書くこと」に関して大きく下回る結果となっている。集めた情報から引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

【算数】

○全国平均と比較して、「測定」に関して大幅に上回る結果となっている。しかし、「変化と関係」については下回る結果となっている。基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことに課題がある。

質問調査より

○児童質問紙の結果から、先生が、児童のよいところを認めてくれている割合が全国平均を超え、8割以上ある。国語の授業が好きな児童は全国平均に比べて高い。５年生までに受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたかという質問に対して、全国平均に比べて高い。携帯・スマートフォンの使用時間が、全国平均に比べて長い結果となっており、朝食を毎日食べているかという質問に対しても全国平均に比べて低い結果となり、課題がみられる。

今後の取組（アクションプラン）

○学力向上については、引き続き校内研修担当者を中心に研究推進委員会を通して、児童の学力分析を進め、課題を共有し、組織的な取組の推進を図っていく。

○国語科では、読解力の向上に取り組むことで自分の考えを伝わるよう書く力の育成をめざす。

○算数科では、様々なデータから、その関係を正しく読み取れることができるよう、指導方法の工夫改善を図る。